

[部会の主な意見]

- 1 (周) 今年度から新たに実施した周産期医療体制調査を継続して行うこと
- 2 (在) 医療的ケア児に対応できるレスパイト支援及び通所サービス施設の確保を引き続き行う。

取組と指標の整合性 (セオリー評価)	(周) 中間アウトカム(周産期のメンタルヘルスケアに対応する医療機関)の対象となる医療機関を整理し、整合ある研修を検討する。 (周) 妊産婦の口腔ケアに関して、中間アウトカム(歯科検診実施市町村の実施数)の増加に繋がる個別施策を検討する。 (在) 中間アウトカム(小児対応可能な在宅医療支援薬局数)の増加に繋がる個別施策を検討する。
取組の実施状況 (プロセス評価)	(周) 新指標(年1回の調査、産科と精神科の合同の研修会、地域連携室連絡会議、災害時リエゾンの任命)を実施した。 (周) 県立病院において分娩・新生児手当が措置されていない。 (在) 新指標(在宅支援サービスを発信する県ホームページ)が未作成。
指標の進捗状況 (インパクト評価)	(周) 個別施策(周産期の搬送症例の評価)を行う各地区MC協議会を拡充が、中間アウトカム(円滑な患者受け入れ)に繋がる。 (在) 医療的ケア児コーディネーターは、配置市町村数だけでなく、各自治体内の充足状況を捉えることが必要ではないか。
今後の取組方針 (総合評価)	(周) 年1回新調査を継続して実施し、周産期の患者動向や医療資源の経年把握を行う。 (在) 医療的ケア児に対応できるレスパイト支援及び通所サービス施設の確保を引き続き行う。